

農作物生産情報 (令和5年9月)

気象

(令和5年8月24日 仙台管区気象台発表 東北地方1か月予報より)

向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、平均気温は高い確率が80%となっている。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みである。

水稲

生育が例年よりも大幅に早いペースで進んでいます。
ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認し、刈遅れにならないように注意しましょう！

1 出穂状況

西北全体の出穂最盛期は7月29日で、平年より6日早かった。

■ 市町別の出穂状況

市町名	出穂始		出穂最盛期			出穂終	
	本年	平年	本年	平年	平年差	本年	平年
五所川原市	7/27	8/1	7/29	8/4	早6日	8/1	8/8
中泊町	7/27	7/31	7/29	8/3	早5日	8/1	8/8
板柳町	7/28	8/2	7/30	8/5	早6日	8/2	8/8
鶴田町	7/28	8/1	7/30	8/4	早5日	8/2	8/7
つがる市	7/27	7/31	7/29	8/3	早5日	7/31	8/7
鱒ヶ沢町	7/26	7/30	7/29	8/2	早4日	7/31	8/7
深浦町	7/28	7/31	7/31	8/4	早4日	8/5	8/8
西北全体	7/27	7/31	7/29	8/4	早6日	8/1	8/8

注) 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%の面積が出穂期に達した月日である。

2 刈取時期の判断

刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、遅れると茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。本年は特に刈遅れにならないように注意する。

登熟は、ほ場差、地域間差があるので、次の表を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。

■ 出穂後積算気温からみた刈取適期の期間

まっしぐら	出穂後積算気温で960~1,200°C
つがるロマン	出穂後積算気温で960~1,150°C
はれわたり	出穂後積算気温で970~1,300°C
青天の霹靂	出穂後積算気温で900~1,100°C

注1) 出穂後積算気温：出穂期の翌日からの毎日の平均気温を合計した値

注2) 出穂期：ほ場全体の40~50%が出穂した日

(1) 出穂後積算気温からみた刈取時期の予想（8月16日現在）

主な品種ごとの出穂後積算気温でみた刈取適期の予想は、下表のとおり。

なお、この予想適期はあくまで目安であり、刈取りはほ場の状況を見ながら総合的に判断する。

■ 出穂後積算気温でみた「まっしぐら」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,200℃到達予想日
7月27日	9月2日	9月12日
7月29日	9月4日	9月15日
8月1日	9月8日	9月19日

■ 出穂後積算気温でみた「つがるロマン」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,150℃到達予想日
7月27日	9月2日	9月10日
7月29日	9月4日	9月13日
8月1日	9月8日	9月16日

■ 出穂後積算気温でみた「はれわたり」刈取適期の予想

出穂期	970℃到達予想日	1,300℃到達予想日
7月27日	9月2日	9月17日
7月29日	9月5日	9月20日
8月1日	9月8日	9月24日

■ 出穂後積算気温でみた「青天の霹靂」刈取適期の予想

出穂期	900℃到達予想日	1,100℃到達予想日
7月27日	8月30日	9月8日
7月29日	9月2日	9月10日
8月1日	9月5日	9月14日

注) 五所川原アメダス値を使用し、8月15日までは本年値、それ以降は平年値+2℃を用いて算出。

(2) ほ場ごとの刈取開始期の目安

籾の黄化程度	① 「まっしぐら」・「つがるロマン」・「はれわたり」 ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期 ② 「青天の霹靂」 ほ場全体の籾が、85%程度黄化した時期
枝梗の黄化程度	枝梗の2/3程度が黄化した時期
青未熟粒の混入割合	青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期
籾水分	25~26%程度まで減少した時期

3 稲わらの有効利用

わら焼きの煙は、地域住民の健康に悪影響を与えたり、交通の妨げになるなど問題となっています。稲わらは貴重な有機物資源であるので、焼かずに堆肥やすき込み、りんご・野菜の敷きわら、家畜の飼料等に有効活用しましょう。

<すき込みの注意点>

- (1) 稲わらは、すき込む時期が早いほど腐熟が進むので、秋すき込みを基本に、稲刈り後、できるだけ早めに行う。腐熟促進のため、すき込み前に石灰窒素(20kg/10a)や微生物資材等の腐熟促進資材を散布する。プラウ耕が最適であるが、ロータリー耕の場合は粗めに耕起する。
- (2) やむを得ず春にすき込む場合は、秋に腐熟促進資材を散布しておく。

畑 作

◆ 大 豆 ◆

排水対策、病虫害防除をしっかり行い、収量・品質を確保しよう！

1 排水対策

- (1) ほ場の滞水で収穫作業に支障が生じないように、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 明きよの状態を確認し、必要に応じて補修を行う。

2 病虫害防除

- (1) 紫斑病、マメシクイガの防除をまだ行っていない場合は、9月上旬までに行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜き取りを収穫前までに行う。

◆ 小 麦 ◆

排水対策や土壌改良をしっかり行い、生育を確保しよう！

1 ほ場の準備

- (1) 転作田では、雪解けが早く排水が良いほ場を選び、明きよや弾丸暗きよ等を施工し、融雪水の排水対策を行う。
- (2) は種精度、出芽率及び除草剤の効果を向上させるため、砕土と整地をていねいに行う。
- (3) 土壌pH6.0以下では生育が悪くなるので、土壌診断に基づいて石灰資材を施用し、土壌酸度を矯正する。

2 施 肥

基肥は成分で、10a当たり窒素7～8kg、リン酸12～15kg、カリ9～10kgを基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。

3 種子消毒

紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、ベフラン液剤 25（塗抹処理）やキンセット水和剤 80 など（乾粉衣又は湿粉衣）で種子消毒を行う。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。

4 は種期

は種適期は9月16～25日であり、は種量はドリル播きで10a当たり8～10kgとする。なお、は種時期が9月末以降にずれ込む場合は、は種量を2kg/10a程度増やす。

5 雑草防除

- (1) 耕起前または耕起からは種までの期間が空き、雑草の生育が進んでいる場合、非選択性除草剤により防除する。
- (2) は種後～発芽前に、必ず土壌処理剤を散布する。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。

りんご

**果実の着色や食味を確認し、十分味をのせて適期に収穫しよう！
～～9月4日～9月20日 適期収穫強化期間（広報巡回実施）～～**

ふじの肥大（県生育観測ほ：板柳町五幾形）は、8月21日現在、横径8.4cmで、平年より1.2mm大きい（平年比117%）。

1 つがるの収穫

- (1) 熟度は平年よりも5日程度早く進んでおり、収穫始めは9月5日頃からと見込まれる。
- (2) 収穫が遅れると軟質化するなど品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。
- (3) 熟期が揃わないので、着色、地色、硬さなどを見て2～3回に分けて収穫する。
- (4) 収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、速やかに冷蔵施設に搬入する。
- (5) ストップール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。

2 中・晩生種の管理

- (1) 「樹上選果」の徹底
着果量の多い園地では、収穫時まで随時、肥大の劣るものや果形の悪いもの、病虫害被害果、鳥害果、日焼け果などの障害果を摘み取る。
- (2) 着色手入れ
早くからの強い葉摘みは、鮮やかな色が着かないばかりか食味の低下につながるため、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。

■ 平年の実施時期（着色手入れ）

品 種	除 袋 時 期	着 色 手 入 れ
早 生 ふじ	—	9月10日～10月1日
紅 玉	—	9月15日～ 30日
シナノスイート	—	9月20日～10月5日
ジョナゴールド（有袋）	9月15日～ 25日	9月25日～10月5日
ジョナゴールド（無袋）	—	9月20日～10月10日
陸 奥	9月25日～10月5日	10月5日～ 10日
ふじ(有袋)	9月20日～10月5日	10月5日～ 25日
ふじ(無袋)	—	9月25日～10月25日

(3) 除袋時の注意

着色ムラをなくすために、外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。

日やけを出さないため、二度はぎ用二重袋をかけたものは、まず外袋をはぎ、果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時(晴れた日が3～5日続いた後)に内袋をはぐ。はぐ時間帯は曇天日又は晴天日の10時～14時(果面の表面温度が高くなる日中)する。また、一度はぎ用二重袋をはぐ場合も、同様の時間帯とする。

(4) 摘葉剤「ジョンカラープロ」の使用

「ふじ」のみを対象とし、収穫40～50日前（9月中旬頃）に500倍液を10a当たり400～700ℓ散布する。展着剤ブラボー1,000倍を加えると効果が高まる。

散布後30日間は収穫できない。

散布後に低温や降雨が続くと効果が不十分だったり、散布時に極端な高温では過剰落葉となるので、できるだけ温暖（平均気温：17～19℃）で好天が予想される時に散布する。

3 トキの収穫

早もぎにより食味の劣る果実が出回り、市場評価を落とした事例があることから、早もぎせず、しっかり味をのせて適期に収穫する。

(1) 平年の収穫始めは9月30日頃である。

(2) 熟期が揃わないので、3回程度のすぐりもぎを行う。その場合は、1回目の収穫は表面色指数*3～5の果実が全体の半量程度に達したら行い、指数4以上の果実を収穫する。2回目以降は表面色指数4に達した果実を速やかに収穫する。

(3) 表面色指数5以上の果実は、食味は良いが、貯蔵中に軟質化する場合があるので即売向けとする。

(4) 収穫後は、速やかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

*表面色指数：りんご黄色品種青森県標準カラーチャート(青森県りんご協会発行)の指数。

4 病害虫防除

(1) すず斑病・すず点病

例年発生の多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に、9月15日頃にオーソサイド水和剤80の800倍、又はストライド顆粒水和剤1,500倍のいずれかを果実に十分にかかるように特別散布する。また、早生種に飛散しないよう注意する。

(2) 黒星病

二次感染や翌年の感染を防ぐために、葉摘み作業等の際にも発病葉・発病果は見つけ次第摘み取り、適正に処分する。

(3) モモシンクイガ

被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上の水漬けなど適切に処分する。また、もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

(4) リンゴコカクモンハマキ

発生の多いところでは、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して、適期にジアミド剤又はスピノシン剤を散布する。また、果実に接触している葉を摘み取り、果実被害の軽減に努める。

5 風水害対策

(1) 事前対策

台風等の気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。特に、幹などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害等を受けている枝や樹、幼木に対しては念入りに行う。

(2) 事後対策

ア 倒木した場合は、早めに起こして支柱で支える。

イ 枝が裂けた場合、回復可能なものは、その先の枝量を減らして、ロープで固く縛るか、かすがいなどで固定する。

ウ 浸水した園地では、速やかに排水する。

エ 冠水した場合、有袋果は直ちに除袋する。また、果実や葉に付着した泥は清水で洗い落とす。

オ 水に浸かった果実は区別して収穫する。

特産果樹

◆ぶどう◆

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けよう！

1 収穫時期の判定

(1) スチューベン

ア 県生育観測ほである鶴田町境での着色日は8月20日で平年より7日早い。

イ 収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度（18度以上）を測定するなどし、十分味がのったものを収穫する。

(2) その他の品種

キャンベル・アーリーは未熟果で糖度が上がらなくてもよく着色する。また、白色品種のナイアガラ、ポートランド及びシャインマスカットは果皮色の変化が少ない。

外観上から収穫時期を判定するのは難しいため、収穫に当たっては、必ず糖度を測定する。

■ 品種別の収穫時期と収穫時の目安

品 種	平年の収穫時期	収穫時の目安	
		果皮色	糖度(%)
ポートルランド	9月上旬	黄緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫黒	14
サニールージュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ナイアガラ	9月下旬	黄緑	15
スチューベン	10月上旬	紫黒	18
シャインマスカット	10月上旬	黄緑	18

2 収穫時の留意事項

- (1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。
- (2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
- (3) 収穫した果実は病害虫の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさや着色程度、品質等により選別する。

3 スチューベンの病害対策

- (1) 灰色かび病
長期貯蔵向けのスチューベンを対象に、フルーツセイバー 1,500 倍を8月下旬～9月上旬に10a 当たり 250 ㍓散布する。使用時期は、収穫7日前までである。果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。
- (2) ベと病
例年、8月下旬頃から発生が目立つことから、薬剤防除を行うとともに、発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取り、被害落葉も集めて処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

野 菜

◆トマト◆

適正なかん水と追肥、保温で、気温の低下に伴う裂果の発生を防ごう！

1 摘心

- (1) 収穫打ち切り 50～60 日前を目安に、開花花房の上の2葉を残して一斉に摘心する。
- (2) 摘心後、花房上1葉目のわき芽は除去する。2葉目から発生したわき芽は放任し、混んできたら適宜、途中から切る。
- (3) 尻腐果の発生防止のため、最終のトマトトーン処理後、葉面散布としてカルシウム剤を3～4日おきに2回散布する。

2 摘心後のかん水と追肥、管理

- (1) 裂果発生の軽減のため、かん水は摘心後約30日まで行う。かん水量は1株当たり

- 1.5リットルを基準（2本仕立ての場合は、2株換算とする）とし、かん水間隔は1～2日おきとする。
- (2) 追肥が多いと裂果が多くなるため、追肥は最終花房のトマトトーン処理終了後までとする。ただし、肥料不足の場合は、9月中旬以降1～2回追肥を行う。
- (3) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、夜温が15℃を下回る場合は保温に努める。
- (4) 夜間ハウスを閉め切る時期までに、下葉を60cm以上摘葉する（湿度を下げ、灰色かび病の発生低減のため）。

3 エスレル処理

10月中旬以降は気温が急激に低下し着色が進まないため、エスレル10を散布して着色を促進させる。

	散布時期	収穫最盛期	倍数	散布方法
1	9月25日	10月10日	400倍	下段2花房中心
2	10月1日	10月20日	300～400倍	1回目以外の花房

注) 散布時や散布後2～3日間は、ハウス内の気温を30℃以上にしない。

4 病害虫防除

気温が低下し、湿度が高まるとともに、灰色かび病、疫病、葉かび病等の発生が増加するので、予防に努める。また、タバコガ類、オンシツコナジラミについても防除を行う。

花き

温度管理の徹底で、高品質な花きを生産しよう！

◆キ ク◆

1 今後の作業

- (1) 収穫が終わった株を親株とする場合、病害虫被害のない健全なものを選ぶ。
- (2) 親株は地際部から約10cmの高さで刈り込み、直ちに追肥し、土寄せする。追肥量は窒素成分で0.2～0.3kg/aを目安とする。
- (3) 秋ギクの10、11月出荷栽培では、奇形花の発生を防ぐため高温時には換気を十分に行い、必要に応じて循環扇や寒冷紗等を活用し、施設内温度を少しでも低く管理する。

2 病害虫防除

白さび病、灰色カビ病の予防とともに、オオタバコガ、アザミウマ類が多発する時期なので、早期発見・早期防除に努める。

特にオオタバコガの幼虫は、生長点や蕾に侵入し、著しく商品価値を落とすとともに、9月に発生する幼虫は無加温ハウスで越冬し、翌年の発生源となるため、作用機構の異なる薬剤を定期的にローテーション散布する。また、ハウスの出入口やサイドに防虫ネット（目合い：4×4ミリ以下）を設置し、成虫の侵入を防ぐ。

◆トルコギキョウ◆

1 今後の作業

(1) 抑制栽培では、ハウス内温度が日中 25℃を超えないように換気に努める。夜温が 15℃を下回るようになったら、夜間はハウスを閉める。発らい期以降は上位節間の徒長を防ぎ、固く仕上げるためにかん水量は控えめにする。

花芽が 1 cm 以下の時に日照不足になるとブラスチング（花芽の座死）が増加しやすくなるため、強い遮光は控える。

(2) 越冬栽培では、9月上旬までには種を行い、発芽までは 20～25℃、発芽後は 15℃前後を目標に管理する。定植は 10 月下旬頃までに行う。

2 病害虫防除

上記キク参照。

秋の農作業安全運動展開中 8月15日～10月31日

- 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。